

1. 令和5年度にぎわい交流館運営状況について

(1) 会議室等利用実績について（4～12月）

本年度は、8月15日に台風による閉館が1日あり、期間中の開館日数は270日でした。

4月にコロナ禍で続いてきた感染症対策ルールを緩和し、さらに5月8日からは新型コロナウイルス感染症の法律上の位置付けが5類へ移行されたことから、日進市新型コロナウイルス感染症対策本部の方針に従い、感染症対策ルールを廃止しました。

また、利用時間帯について改めて条例・規則に沿った運用ができるように整理し、「1時間単位の利用」「夜間利用の申請は1週間前まで」という案内を周知する期間となりました。

コロナ禍になってから設定したルールのうち、先行予約方法の変更・会議室の続き間利用については継続をしました。3か月前の初日に先行予約をして希望が重なった場合に抽選するという方法は公平性が保たれるようになり定着しました。また、会議室AB・和室EFをそれぞれ続き間として利用していただくことで、部屋同士の音漏れ問題にも対応しました。

会議室の利用人数は、前年度同期比で約9.2%増となりました。定員は元に戻しましたが、依然としてコロナ禍前の6割弱の利用人数にとどまっています。利用件数（コマ数）は、今年度からコマ割りが午前午後夜間それぞれ4件ずつというカウント方法に変わったため、件数としては約57%増と大幅な増加となりました。カウント方法の変更で単純な比較はできませんが、利用率は、日数ベースでは若干下がるものの件数ベースでは若干上がっており、無駄のない利用をいただいていると考えます。

なお、ランチとコンサートの同時開催は、解決しなければならない問題が多く、従来のランチコンサートを行うことはできなくなりました。音楽の復活を望む声に応え、にぎわい文化発表会を開催しました。

会議室の利用時間区分と定員（コロナ禍以降は感染症対策ルールとして設定）

	利用時間区分（コマ）	会議室定員	その他
コロナ禍以前	区分なし	会議室ABC：51名 会議室D：15名 和室：16名	
令和2年6月～12月	午前 ①9：00～10：30 ②11：00～12：30 午後 ③13：30～15：00 ④15：30～17：00 夜間 ⑤18：30～20：00 ⑥20：30～22：00	会議室ABC：15名 会議室D：5名 和室：4名	
令和3年1月～12月		会議室ABC：25名 会議室D：8名 和室：8名	
令和4年1月～	午前 ①8：30～10：00 ②10：00～11：30 ③11：30～13：00 午後 ④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00 ⑥16：00～17：30 夜間 ⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00	会議室ABC：34名 （※AB22名・C12名） 会議室D：10名 和室：8名 ※令和5年1月からAB・C 分割利用が可能となった	連続利用：3コマ（4時間半） 特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限
令和5年1月～			特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限 ・部屋間の往来 ・同室の1日4コマ以上の利用 ・会議室内での飲食
令和5年3月13日～			特例利用撤廃 ・飲食時パーテーション利用又は適切な距離の確保の案内
令和5年4月1日～	午前 ①9：00～10：00 ②10：00～11：00 ③11：00～12：00 ④12：00～13：00 午後 ⑤13：00～14：00 ⑥14：00～15：00 ⑦15：00～16：00 ⑧16：00～17：00 夜間 ⑨17：30～18：30 ⑩18：30～19：30 ⑪19：30～20：30 ⑫20：30～21：30	会議室ABC：51名 （AB33名・C18名） 会議室D：15名 和室：16名	5類へ移行となり、感染症対策について撤廃

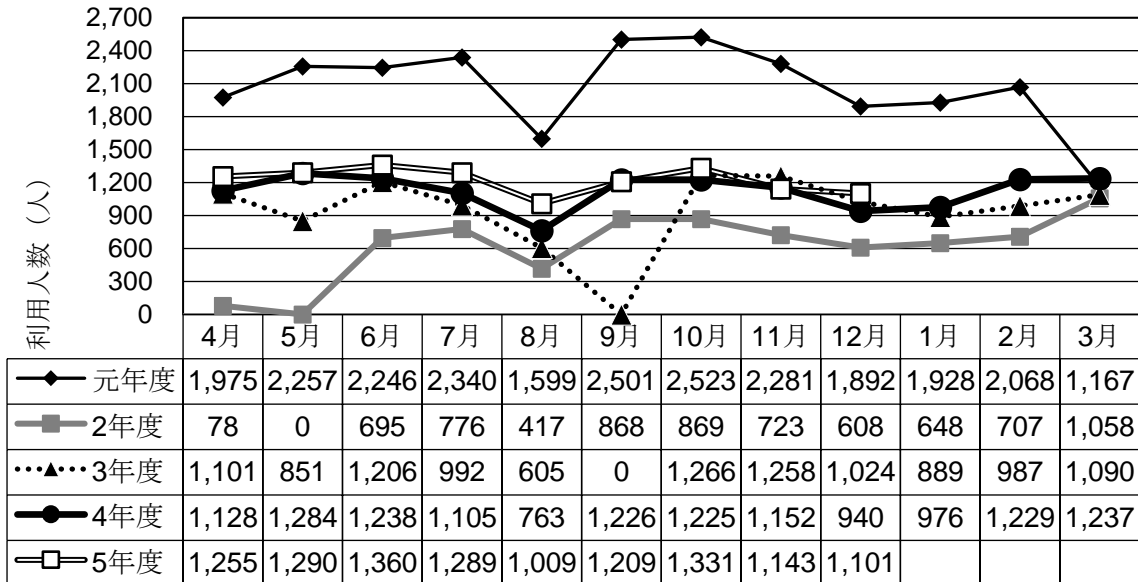
※まん延防止等重点措置等を受けて、令和3年度まで一部の期間で開館時間を短縮しました。

会議室等の利用状況（4～12月）

	R5年度	R4年度	R1年度
開館日数	270日	271日	270日
会議室利用人数	10,987人	10,061人	19,614人
利用件数	3,848件	2,457件	1,534件
利用率（設定されたコマ数（時間帯）に対して利用があったコマ数の割合）	午前 48.4%	計測なし	設定なし
	午後 52.5%		
	夜間 17.9%		
利用率（1件以上の利用があった割合）	午前 90.4%	午前 91.1%	午前 91.9%
	午後 92.6%	午後 94.1%	午後 96.3%
	夜間 60.4%	夜間 55.0%	夜間 80.7%
会議室利用団体数	132団体	127団体	149団体
1件あたりの利用人数	2.9人	4.1人	12.8人
印刷機の利用件数	239件	326件	424件

※令和元年度の利用件数はコマ数ではなく、利用時間数に関わらず1件で計上しています。

会議室利用人数の推移



会議室ごとの利用人数・件数

		会議室 ABC	会議室 AB	会議室 C	会議室 D	和室	合計
利用人数	R5年度	6,601人	6,225人	6,195人	2,805人	1,581人	10,987人
	R4年度	6,383人			2,546人	1,132人	10,061人
	前年比	103.4%			110.2%	139.7%	109.2%
	R1年度	11,127人			4,988人	3,499人	19,614人
	R1年度比	59.3%			56.2%	45.2%	56.0%
利用件数	R5年度	1,503件	1,375件	1,391件	1,451件	894件	3,848件
	R4年度	1,096件			877件	484件	2,457件
	前年比	137.1%			165.5%	184.7%	156.6%
	R1年度	603件			552件	379件	1,534件
	R1年度比	249.3%			262.9%	235.9%	250.8%

会議室の利用率（日数ベース）

利用率	会議室 ABC			会議室 AB			会議室 C			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R5 年度	71.5 %	77.8 %	41.5 %	65.9 %	72.6 %	37.0 %	68.1 %	70.0 %	39.6 %	71.9 %	79.3 %	37.0 %	51.1 %	56.3 %	11.1 %
R4 年度	80.1 %	77.5 %	38.0 %	/	/	/	/	/	/	66.1 %	77.5 %	26.2 %	42.8 %	46.9 %	4.8 %
R1 年度	75.2 %	88.9 %	61.5 %	/	/	/	/	/	/	73.7 %	88.1 %	53.0 %	64.8 %	76.7 %	38.5 %

※1件以上の利用があった場合に計上。

会議室の利用率（コマ数ベース）

利用率	会議室 ABC			会議室 AB			会議室 C			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R5 年度	54.0 %	59.6 %	25.6 %	49.5 %	55.0 %	22.8 %	51.4 %	53.1 %	24.3 %	52.8 %	59.4 %	22.2 %	38.3 %	38.5 %	5.9 %
R4 年度	56.2 %	56.8 %	21.8 %	/	/	/	/	/	/	43.1 %	50.9 %	13.9 %	27.9 %	29.2 %	2.5 %
R1 年度	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

※利用時間の区分に対してのコマ数を計上。2023年4月からの区分は、午前 ①9:00～10:00 ②10:00～11:00 ③11:00～12:00 ④12:00～13:00、午後 ⑤13:00～14:00 ⑥14:00～15:00 ⑦15:00～16:00 ⑧16:00～17:00、夜間 ⑨17:30～18:30 ⑩18:30～19:30 ⑪19:30～20:30 ⑫20:30～21:30
※R1年度はコマ区分がないため未記載。※R1・R4年度は会議室 AB・C の区分けではないため未記載。

(2) 市民サロン運営実績について

ワンデイシェフによるランチ提供は、10月に1団体増えて5団体となりました。1日あたりの平均食数は27.2食と、ランチを再開した前年より増加しました。新規団体の花菜豆（はなまめ）は50食を超える予約が入り、コロナ禍前のような活気を取り戻したと感じる日も出てきました。しかし、団体都合での休止も多く、稼働日がほとんどないため、市民の期待に応えられていないのが現状です。利用促進の取り組みとしてコロナ禍前に実施していた「木祖村ランチフェア」「あったかだんらん鍋フェア」は稼働日が少ないため開催できていません。また、11月に保健所からの指導が入り、子ども食堂以外のワンデイシェフはレンタルキッチンという扱いになり、個別に営業許可の取得をしてもらう必要が生じました。この課題がきっかけでやむを得ず一時休止となった団体もあります。今後のワンデイシェフ運営について今後も引き続き調整していきます。

マーケットは10月から1団体増えて6団体が利用しました。団体の都合でのお休みが多く、予定の3分の1程度の開催日数となりました。スマイルハウスは、にぎわいNEWSで特集を組んだ効果で、来館者との交流が活発になりました。

ギャラリーの開催回数は19回で、前年度より増加しました。布を使った大きな作品を展示される団体もあり、新しい団体の参加が目立ちました。来館者からの質問なども多く、サロンの活気につながっていると感じます。利用の無かった期間に、にぎわい文化発表会の一環として、ギャラリーも利用して、俳句・絵手紙・などの団体の展示を行いました。

	ワンデイシェフ						ギャラリー		
	食数 (食)			1日平均食数 (食)			展示回数 (回)		
	5年度	4年度	元年度	5年度	4年度	元年度	5年度	4年度	元年度
4月	285	135	1,187	19.0	27.0	45.7	2	2	2
5月	272	176	961	22.7	25.1	41.8	2	2	0
6月	206	134	1,098	25.8	26.8	42.2	2	2	3
7月	111	97	1,157	27.8	19.4	46.3	2	2	3
8月	103	53	969	20.6	13.3	46.1	3	3	3
9月	113	/	1,060	16.1	/	46.1	2	1	1
10月	266	289	1,122	38.0	24.1	46.8	2	2	1
11月	164	320	1,142	32.8	24.6	45.7	2	3	3
12月	208	140	811	41.6	23.3	47.7	2	1	2
1月	/	137	901	/	22.8	42.9	/	1	1
2月	/	184	955	/	23.0	41.5	/	2	4
3月	/	266	/	/	26.6	/	/	2	3
合計	1,728	1,931	11,363	27.2	23.3	44.7	19	23	26

(3) 登録団体数について

にぎわい交流館の登録団体数は12月末時点で303団体であり、前年度末に比べて16件増加しました。新たに活動を始めた、既存の活動から発展した等の団体が16団体ありました。

新規登録団体の主たる活動分野は、「保健・医療・福祉」「子ども健全育成」(各5件)が多く、次いで「学術・文化・芸術・スポーツ」(3件)となりました。

(単位:件)

	新規登録	登録取消	差引増減	年度末団体数
令和元年度	/	/	/	322
令和2年度	10	3	7	329
令和3年度	17	78	-61	268
令和4年度	29	9	20	287
令和5年度(4~12月)	17	1	16	303

(4) 相談対応について(4~12月)

期間中に対応した相談は306件でした。相談の多かった前年度同期(280件)から9.3%の増加となりました(前々年度同期は243件)。

相談者の内訳は、「市民」「登録団体」が各39.2%で最多となりました。

相談内容の内訳は「施設利用・団体登録したい」が最多、次点が「講座や団体を探している」となり、昨年から2.35倍増加しました。コロナ禍が終わり活動したい方が増えた結果だと考えます。麻雀や外国語を学びたい、日本語教室に行きたいという相談が目立ちました。登録団体外からの会議室や印刷機などの利用やランチ・喫茶利用についての問い合わせも多くありました。「館の運営・事業について」は、ルール変更がなくなったことから落ち着いたものと考えます。

相談者の分類			相談内容の分類		
市民	120	39.2%	施設利用・団体登録したい	55	18.0%
登録団体	120	39.2%	講座や団体を探している	47	15.4%
未登録の団体	29	9.5%	館の運営・事業について	35	11.4%
行政・学校等	25	8.2%	団体について知りたい	29	9.5%
企業	11	3.6%	広報・集客について	23	7.5%
社協	1	0.3%	その他	117	38.2%

※比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

(5) 主な事業の進捗状況

【受託事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にぎわい NEWS (Vol. 26) (Vol. 27)	令和 5 年 9 月	発行部数 2,000 部
	<p>市民活動に関心を持ってもらうため、市民向けの情報紙を発行した。特集のインタビュー記事を中心に構成。地区回覧がないため団体の名刺代わりに配付していただいたり、おまつり出展時ににぎわい交流館の案内と共に配布するなど、少しでも見てもらえるよう心掛けた。</p> <p>Vol. 26 人のつながりは宝 体験でつちかう力 山口朝子さん (NPO 法人スマイルハウス)</p> <p>Vol. 27 にっしん市民環境ネット (3 月発行予定)</p>		
2	イベントカレンダー	月 1 回	発行部数 150 部
	<p>登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月 1 回市内公共施設に設置する。当初の計画通り発行。</p>		
3	にぎわい団体帖	令和 6 年 2 月予定	発行部数 50 部予定
	<p>市民活動団体の認知度向上・市民活動への参加促進のため、にぎわい登録団体の情報を掲載した冊子を制作する。継続意向調査と合わせて団体に確認を行い更新作業をして 2 月に発行を予定している。</p>		
4	にっしんわいわいフェスティバル 実行委員会事務局	《令和 5 年度開催》 会議等 令和 5 年 4 月～8 月 開催 7 月 1 日 (土)	《令和 5 年度開催》 実行委員 5 人 (6 人から途中で 1 人減) 出展団体 75 団体 来場者 約 1,000 人
		《令和 6 年度開催》 実行委員募集 9 月 会議等 9 月～令和 6 年 3 月	《令和 6 年度開催》 実行委員 5 人
<p>SDGs の推進や市民活動の啓発、市民活動団体同士や大学生・地縁型団体・企業等との連携を図るため、市民主体の実行委員会形式でイベントを開催・運営した。実行委員会（全体会）の運営、出展団体の取りまとめ、経費精算をはじめとする諸業務を行った。当初の計画通り実施。わいフェス 2023 の実行委員会は前年より 2 人増え、より多様な視点を取り入れたイベントになった。開催目的は昨年同様、「わたしたち一人ひとりが『誰ひとり取り残さない』まちをつくるために、SDGs への理解をさらに深め、行動するキッカケをつくること」と定めた。出展者アンケートでは昨年より好評を得られた。</p> <p>わいフェス 2024 は、在り方を整理し、主催を市とし、市と実行委員会の協働開催となりました。市民自治活動を推進・支援していくために開催するイベントと改めて位置づけた。わいフェスを作りあげる実行委員は前回から 3 人が続投、新たに 2 人が加わり、新たな視点を持って丁寧な話し合いが続いている。</p>			

	事業名	日程	参加者数等
5	NPO 会計のいろはを学ぼう(団体向け講座)	令和5年8月24日(木)	会計講座・公開相談会： 15人(10団体) 個別相談会：1団体
	NPO における会計の必要性や具体的な方法を周知するため、税理士の中尾さゆり氏を講師に迎え、初心者向けの会計講座を実施した。直接声がけしたこともあり、団体立ち上げ期から関わってきた団体が多く参加した。公開質問会では積極的な発言が多かった。アンケート結果は満足度が高く、会計作業への意欲も見られ、充実した内容の講座を開催することができた。個別相談会を利用した団体は、講師に自団体の会計の課題を話すうちに、もっと根本的な課題に気づいた。相談会終了後に引き続きで相談を受けられるように、講師からの提案を受け、専門家相談コーディネート事業の利用に初めてつながった。当初の計画通り実施。		
8	にしん市民まつり にぎわい交流館ブース	令和5年11月19日(日)	ブース出展 出展団体 14団体 来場者 1,395人 (出展団体からの報告の合計) にぎわい文化部発表会 出展団体 17団体
	市民活動団体によるブース出展(屋外13ブース、ワンデイシェフ1団体)のほか、会議室ABCと市民サロンでは「にぎわい文化部発表会」と題した企画を実施し、ステージ発表7団体、展示発表10団体の出展があった。また、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。ブース出展の来場者数はコロナ禍前(令和元年)の8割程度、販売金額も7割程度に回復した。出展団体の満足度はとても高く、当初の目的はおおむね達成できた。当初の計画にはなかったが、「にぎわい文化部発表会」を開催。団体の発表の機会が欲しい、わいフェスで俳句の団体が一緒に展示できると良い等、日頃の要望や相談での意見も踏まえ、文化系の団体に声かけし、音楽や団体活動の発表をする機会とした。発表した団体が互いに見学し、団体交流にもつながった。		
9	日進のソーシャルグッドをつくる人(市民向け講座)	令和6年2月17日(土)	
	社会課題を解決に導くために、どんな人にも社会に目を向け自分達でまちをつくらうという気持ちを持ってもらうことが必要であり、そのような機運を醸成したいと考える。そのため、にぎわい交流館の登録団体ではないが、自分が感じる社会課題に主体的に楽しく取り組んでいる人を講師に迎え、その経緯を聞き、まちづくりや市民活動に対するイメージの変革を図る。また、参加者にまちづくりについて主体的に考えるということのイメージをもってもらい、まちづくりについて考え実践することを、生き方の一つの選択肢にし得ることに気づいてもらう。		

	事業名	日程	参加者数等
10	団体交流会	令和5年8月26日(土)	参加者 26人(23団体)
	<p>コロナ禍で交流の止まっていた団体同士が直接つながる交流会を開催した。当日の飛び入り参加も多く、参加者数は想定を超え目標を十分に達成できた。つながりができるとよい団体を想定し、最初に配置できたことで、関連した団体の交流が促進された。交流会後、団体専用事務室を長年利用していた団体同士が会話を交わすようになる場面も見られた。時間が足りなかったという声もあり、次回以降の課題としたい。継続意向調査や他の事業の告知もあり、当初の計画より時期を遅らせて実施。</p>		
11	友好自治体フェア	令和5年8月 令和6年2月(予定)	
	<p>友好自治体(木祖村、志摩市)との連携、ワンデイシェフの利用促進、来館者増加が目的。ランチフェアの開催を希望したがワンデイシェフの担当日が少ないこともあり開催はできなかった。木祖村フェアは市民協働課によって、にぎわい交流館でのギャラリー展示と会議室を利用した木祖村野菜産直フェアが実施された。</p>		

【自主事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	事業報告・説明会(団体交流会と共に実施)	令和5年8月26日(土)	参加者 26人(23団体)
	<p>登録団体に対して、にぎわい交流館の前年度の事業成果について報告するとともに、本年度の事業計画について説明することにより、にぎわい交流館への理解を深めてもらう機会として団体交流会の前に実施した。コロナ禍の始まりから運営体制が変わったことも改めて団体に伝える機会となった。</p>		
2	お子様弁当無償提供事業等に関する登録団体のサロン棚利用	令和5年8月(1日間)	利用団体 1団体
		令和5年12月 ～令和6年1月(2日間)	利用団体 2団体
<p>全国チェーンの飲食店が無償提供する弁当を子育て家庭に配布するため、「にぎわいマーケット」の行為許可に準じて、市民サロンの棚を貸し出した。前年に続き、団体のニーズに合わせて実施した。</p>			
3	にぎわい夢まつり	令和5年9月17日(日)	出展団体 9団体 ブース来場者 1,226人 (出展団体からの報告の合計)
	<p>市民活動団体によるブース出展(7ブース8団体)のほか、日進絆子ども食堂による飲食提供(アジパンダ食堂)、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。感染症対策等の規制のない開催となり、来場者は昨年より2倍、販売金額は1.5倍と好調な結果となった。出</p>		

	事業名	日程	参加者数等
	展団体の満足度もかなり高く、当初の目的はある程度達成できた。味の素株式会社の社会貢献としての取り組み「アジパンダ食堂」（現在は実証実験段階）に日進絆子ども食堂が協力し、にぎわい交流館はその連絡調整を行った。		

その他特記事項

- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンターと打ち合わせ……月 1 回を目安に、8 回実施。
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会参加
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター事業への参加…3 回
（部会参加、東尾張ブロックボランティア集会、にしん支え合い円卓会議）
- 子どもの支援を考える会……12/7「子ども食堂・フードパントリーをはじめよう！」講演会参加
- にしん観光まちづくり協会参加……2 回（総会、理事会 1 回）
- わたしのまちのしあわせづくり委員会……1 回
- 環境課……エコモビ推進キャンペーンに協力
- 防災交通課移動政策室……のりものカード配布
- 愛知淑徳大学 CCC……コラボメッセに参加
- 公益財団法人とよしん育英財団表彰……3 団体を推薦
- 菓子製造業許可の取得
- 愛知学院大学リサーチプロジェクトへの協力……講義等
- 愛知県災害中間支援組織設立に向けた協力団体調査への説明会参加と調査協力
- 青葉まつりへ参加
- 第二次環境基本計画策定委員会傍聴
- 生ごみ処理機（環境課）モニター設置
- 愛知県ユニセフ協会 1 周年記念イベントへ参加
- 日進市新規採用職員研修……講師として参加予定
- 三好高校……総合的な探求の時間での講義と受け入れを予定
- 職場体験……日進西中学校・北中学校の受け入れを予定
- 日進市市民自治活動推進補助金の成果報告会・募集説明会参加を予定
- にぎわいお昼ごはんの日（自主事業）……ワンデイシェフや弁当販売の実施がない日に、にぎわい交流館によるランチ販売を行う。1 月 18 日に試行を予定。

2. 令和6年度にぎわい交流館運営計画について

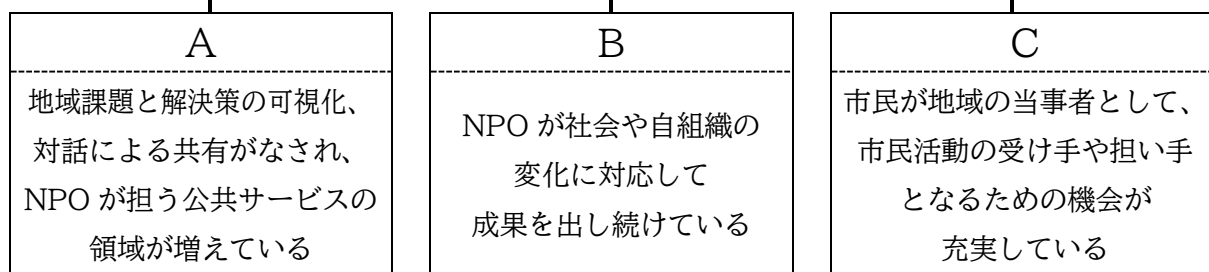
(1) ビジョンと長期成果

運営の指針として平成29年度から掲げてきたビジョンについて、令和4年度に小幅の見直しを加えて使用しています。使用期間は第6次日進市総合計画（以下「6次総」）の中間目標年に合わせ、令和7（2025）年度までです。

ビジョン（まちの将来像）

市民・行政・NPO・事業者が効果的に連携しながら、
地域課題の解決に取り組むしくみができている

長期成果



	長期成果に対する 数値目標 (R6年度)	直近の実績	6次総 2025年の 目標値等	所感
A	行政とNPOの 協働事業件数 120件	91件 (R2) 99件 (R3) 116件 (R4)	108件	協働事業件数は順調に増加。今後も、 新たな協働を創出する環境づくりに 努めたい。
B	にぎわい交流館 登録団体数 300団体	303団体 (R5年12月)	327団体	高齢化などにより活動を止める団 体もあるが、新規登録も多く、全体 では増加傾向にある。令和5年度 末には継続意向のない団体がある ため減少が見込まれる。
C	ボランティア・NPO 活動への参加経験の ある市民の割合 17%※	14.7% (H30) 15.2% (R2) 15.6% (R4)	20%	寄せられる相談からも、ボランテ ィアに参加意欲のある市民が増え てきている印象がある。今後も情 報発信に努めたい。 ※ 2年に一度の市民意識調査での計測 を継続する。

(2) 受託事業および自主事業

分類	事業名	受託／自主
施設管理・ 利用許可等	会議室、印刷機、団体専用事務室等の利用許可、団体登録 調理室・ワンデイシェフ、マーケット ギャラリー 施設管理（清掃、警備、植栽管理など） 人権・男女共同参画情報スペースの管理	受託事業
	(1) 喫茶提供、にぎわいドリンク にぎわいお昼ごはんの日	自主事業
相談窓口	(2) 相談対応	受託事業
	事務支援事業（消耗品販売、名刺作成、データ印刷等）	自主事業
情報収集 および発信	(3) 市民活動、大学・学生団体に関するチラシ等の受付、配架 団体書庫、図書等収集・配架 にぎわいNEWS（2回） 広報につきん記事制作（1回） (4) にぎわい団体帖（1回） (5) ウェブサイト（リニューアル） SNS運用（Facebook、Instagram、LINE公式アカウント、 X（旧Twitter）等） (6) メールマガジン イベントカレンダー（月1回） チラシ配送（市民自治活動奨励事業認定制度） キャラクター「わいわい」を利用したPR	受託事業
講座・ イベント等	(7) わいわいフェスティバル実行委員会事務局 (8) 団体向け講座 (9) 市民向け講座 (10) 団体交流会 (11) につきん市民まつり（にぎわい交流館ブース） 友好自治体に関する情報収集・PR	受託事業
	(12) にぎわい夢まつり	自主事業
会議等への参 加、関係機関 との連携	につきん観光まちづくり協会理事会 日進市ボランティアセンター運営委員会（社会福祉協議会） 子どもの支援を考える会（社会福祉協議会） わたしのまちのしあわせづくり委員会 日進市ボランティアセンター（社会福祉協議会）、日進市社会 福祉協議会 CSW、市民協働課自治振興係、大学のボランティ アセンター等との定期または不定期の情報交換	受託事業

※番号のある事業は、次ページ以降に説明があります。

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(1)	にぎわいお昼ごはんの日	通年	自主事業	
	ワンデイシェフが少ないため、実施がない日に、にぎわい交流館スタッフによる手作りのランチを販売する。食材に登録団体が育てた野菜を使ったり、日頃から弁当販売等をしている登録団体の惣菜を添えたり、無理のない範囲で団体にも協力を仰ぎながら進め、団体支援や市民活動啓発の場にもする。			
(2)	相談対応	通年	受託事業	B
	市民や団体の相談を受け、助言や提案を行う。必要に応じて他団体・関係機関とのマッチングを行う。相談の内容により、専門家への相談につなげる。			
(3)	にぎわい NEWS	年 2 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、市民向けの情報紙を制作する。各号のテーマは、活動分野やターゲットとなる層のバランスを考慮して選定する。継続。			
(4)	にぎわい団体帖	1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアの団体を知ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、団体の情報を掲載した冊子を制作（情報更新）する。継続。			
(5)	ウェブサイト（リニューアル）	通年	受託事業	C
	スマートフォンでの閲覧や、市民の関心事項にアクセスしやすいウェブサイトを目指し、リニューアルを行う。登録団体やイベント、館内のワンデイシェフ・ギャラリー・マーケットなどの情報を記載する。更新。			
(6)	イベントカレンダー	月 1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、収集したイベント情報をカレンダー形式で制作する。市内の公共施設にも配架する。継続。			
(7)	わいわいフェスティバル 実行委員会事務局	通年（7月6日（土）開催）	受託事業	C
	市民主体のイベント運営のための事務を行う。会議の設計・進行、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など。出展団体(テーマ型団体、地縁型団体、大学・学校、企業、行政)間の交流・連携を図る。また、市民への SDGs や市民活動の啓発を行う。前年度と同様の形態・規模で実施予定。継続。			
(8)	団体向け講座	1 回	受託事業	A・B
	団体の人材育成や市民自治活動の支援につながる講座やイベントを企画する。			

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(9)	市民向け講座	1回	受託事業	C
	市民活動、社会貢献活動の啓発・参加促進のための講座・イベントを企画する。 若年層をターゲットとした講座を検討中。			
(10)	団体交流会	1回（夏頃を予定）	受託事業	A
	団体間の交流とネットワークづくりの支援として参加団体の近況報告、情報交換を行う。 合わせて、にぎわい交流館からの事業報告・事業説明を行い、にぎわい交流館の運営や事業について意見交換や参加の呼びかけを行う。			
(11)	にっしん市民まつり（にぎわい交流館ブース）	1回（11月）	受託事業	C
	にっしん市民まつりの一環で開催し、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。			
(12)	にぎわい夢まつり	1回（9月）	自主事業	C
	にっしん夢まつりに合わせて、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。 継続。			